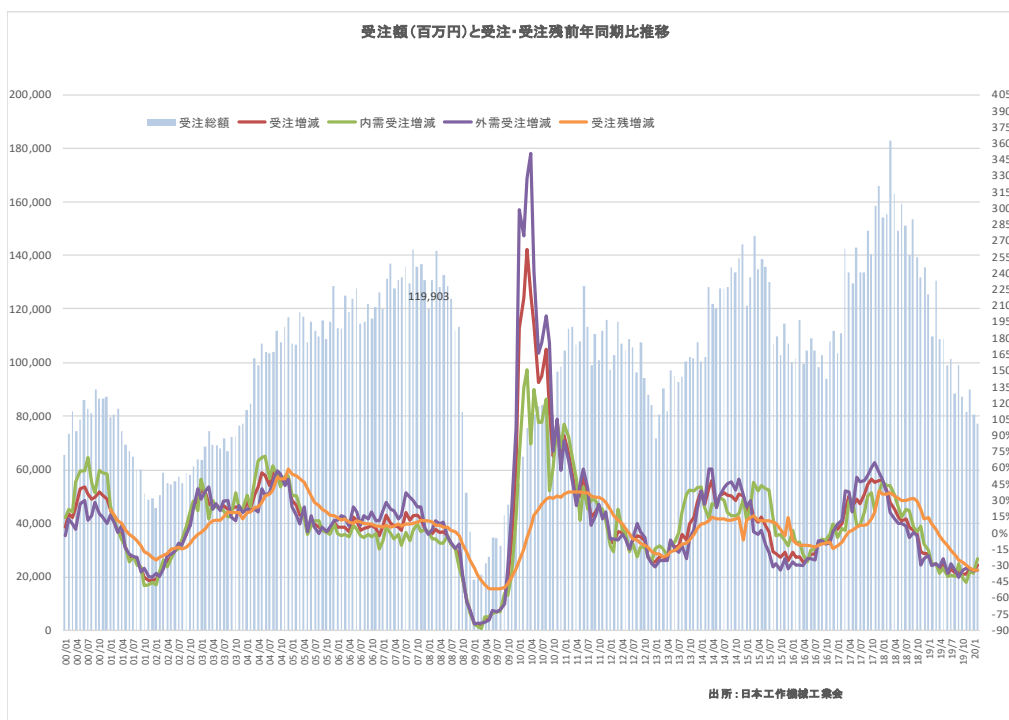


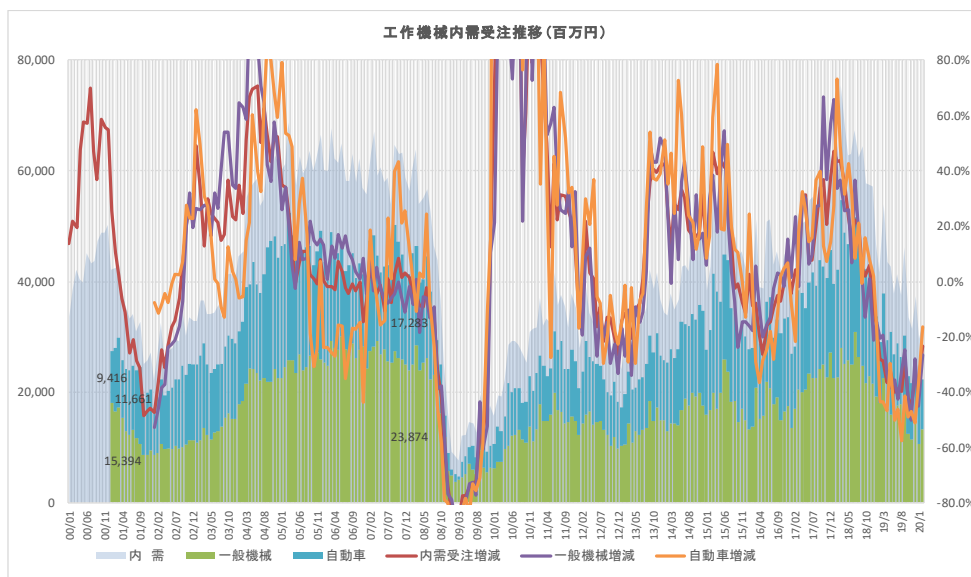
工作機械 2月受注確報 コロナウイルス影響で受注回復は秋以降でネガティブ

2月受注は29.6%減の772億円、コロナウイルス影響で2020年は25%減の9000億円懸念

3/24に日本工作機械工業会の2月受注確報が開示された。2月受注は前年同月比29.6%減の772億円。1月の808億円に対し4.3%減で底抜け状況にあり、17ヶ月連続同月比減、2013年1月716億円以来の低水準。



国内が320億円(23.2%減)で15ヶ月連続減。2月の350億円割れは2014年の340億円以来。主要4業種全てが前年同月比減も、新型コロナウイルス影響は軽微に止まる。



工業会の3月上旬会員アンケートでは4~6月受注見通しは引き続き減少と見る会員が多かった。コロナウイルスの影響を加味しているものの、3月上旬ではまだ欧州でのブロックアウト、米国でも同様の動きは想定しておらず、4~6月受注は一段と厳しさを増そう。特に懸念されるのが米国で、3月以降大きく減少する懸念がある。一方、大きくマイナス継続するとみられていた中国向けは、月次100億円割れも中国での補助金利用は6月までに購入完了が条件で、3月は若干持ち直し傾向、4月以降はコロナ終息を受け回復を見込む。国内はコロナウイルス影響がこれから出るが、一部で次世代自動車向けの設備投資が時間的にリミットの環境で、底抜けにはなっていないとのこと。全体としてコロナウイルスの影響が更に長引くとしても、リーマンショック時の年間4000億円という極端な受注減少にはならないと見られる。但しコロナウイルス影響が人的交流を世界的に阻む動きから、工作機械受注が7~9月回復のシナリオは崩れたと判断、2020年は年間9000億円(25%減)程度に落ち込むとみられる。国内生産のファナックは株価が既に10年来安値を更新しており、調整は完了している模様。一方、DMG森は欧州7工場で4月の生産を中止、その他、牧野やツガミ、ソディックなども海外工場稼働問題を抱える。欧米、中国比率などで各社特徴があるものの、一般的にコロナ影響を受ける代表的な業界であり、ファナックを除き、ネガティブと見る。なお、昨日は日経ダウ急反発で株価も急騰しているが、4/9には3月の工作機械受注速報が示され、3月として大きな減少率が懸念されるため、自社株買いをアナウンスしたソディックを含め、短期的に売り推奨できると判断する。

売上仕向先							
コード	社名	日本	米国	欧州	中国他	他	製造拠点
6101	ツガミ	44%			49%	7%	中国主
6103	オークマ	52%	27%	14%		2%	国内主
6135	牧野フライス	24%	24%	10%	20%	21%	国内、シンガポール
6143	ソディック	34%	9%	9%	36%	12%	国内、中国、タイ
6141	DMG森	20%	12%	57%		10%	国内、欧州
6136	OSG	42%	17%	17%	24%		日本、各国
6954	ファナック	24%	16%	19%	19%	22%	日本
9962	ミスミ	53%	14%	5%	17%	10%	日本、協力工場